

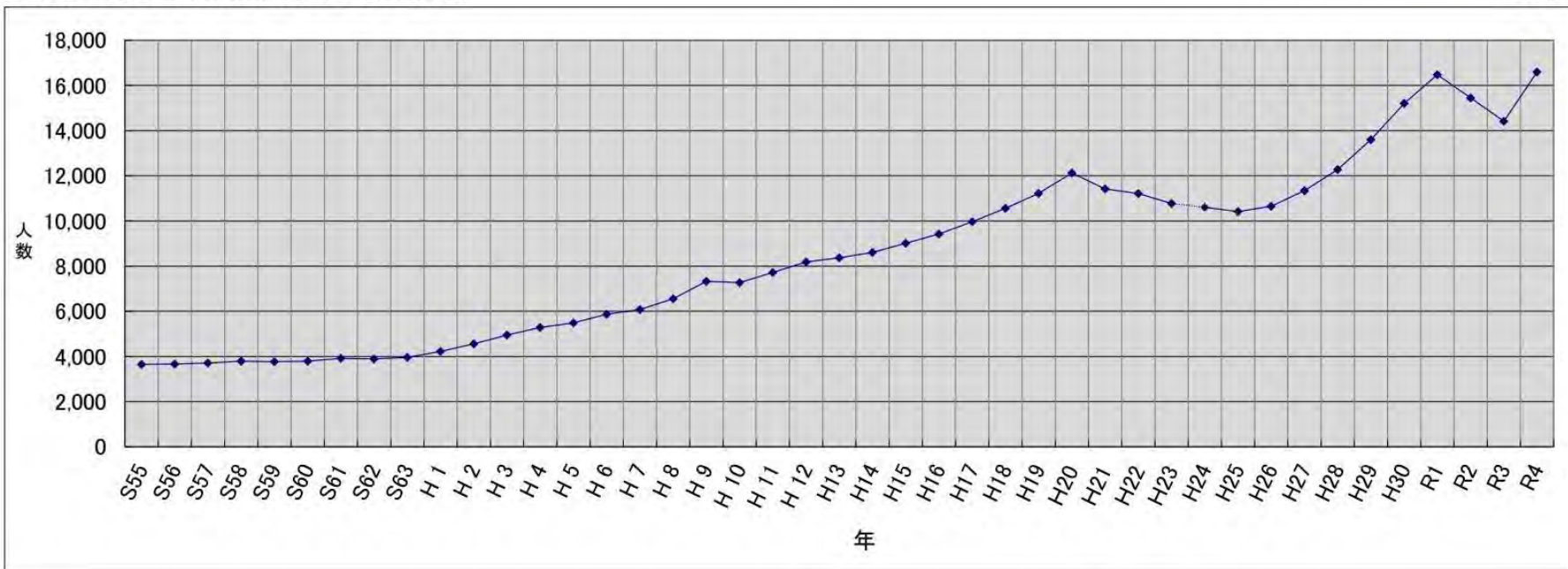
能登半島地震被災 ベトナム人の現状と 支援のありかた

2024年1月16日

石川県の在住外国人 この10年ほどで急増(1.6倍加) 110万人の県人口で1万6598人の在住外国人

年次別外国人住民数推移(各年12月末現在)

(単位:人)



	S55	S56	S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15
総計	3,650	3,666	3,714	3,794	3,765	3,794	3,917	3,888	3,960	4,228	4,562	4,946	5,280	5,486	5,867	6,085	6,552	7,329	7,274	7,715	8,186	8,374	8,609	9,016
前年比率	—	100.4%	101.3%	102.2%	99.2%	100.8%	103.2%	99.3%	101.9%	106.8%	107.9%	108.4%	106.8%	103.9%	106.9%	103.7%	107.7%	111.9%	99.2%	106.1%	106.1%	102.3%	102.8%	104.7%

	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
総計	9,420	9,965	10,562	11,220	12,126	11,417	11,215	10,775	10,601	10,417	10,655	11,343	12,278	13,596	15,206	16,474	15,447	14,412	16,598
前年比率	104.5%	105.8%	106.0%	106.2%	108.1%	94.2%	98.2%	96.1%	—	98.3%	102.3%	106.5%	108.2%	110.7%	111.8%	108.3%	93.8%	93.3%	115.2%

図1 国籍別外国人労働者の割合

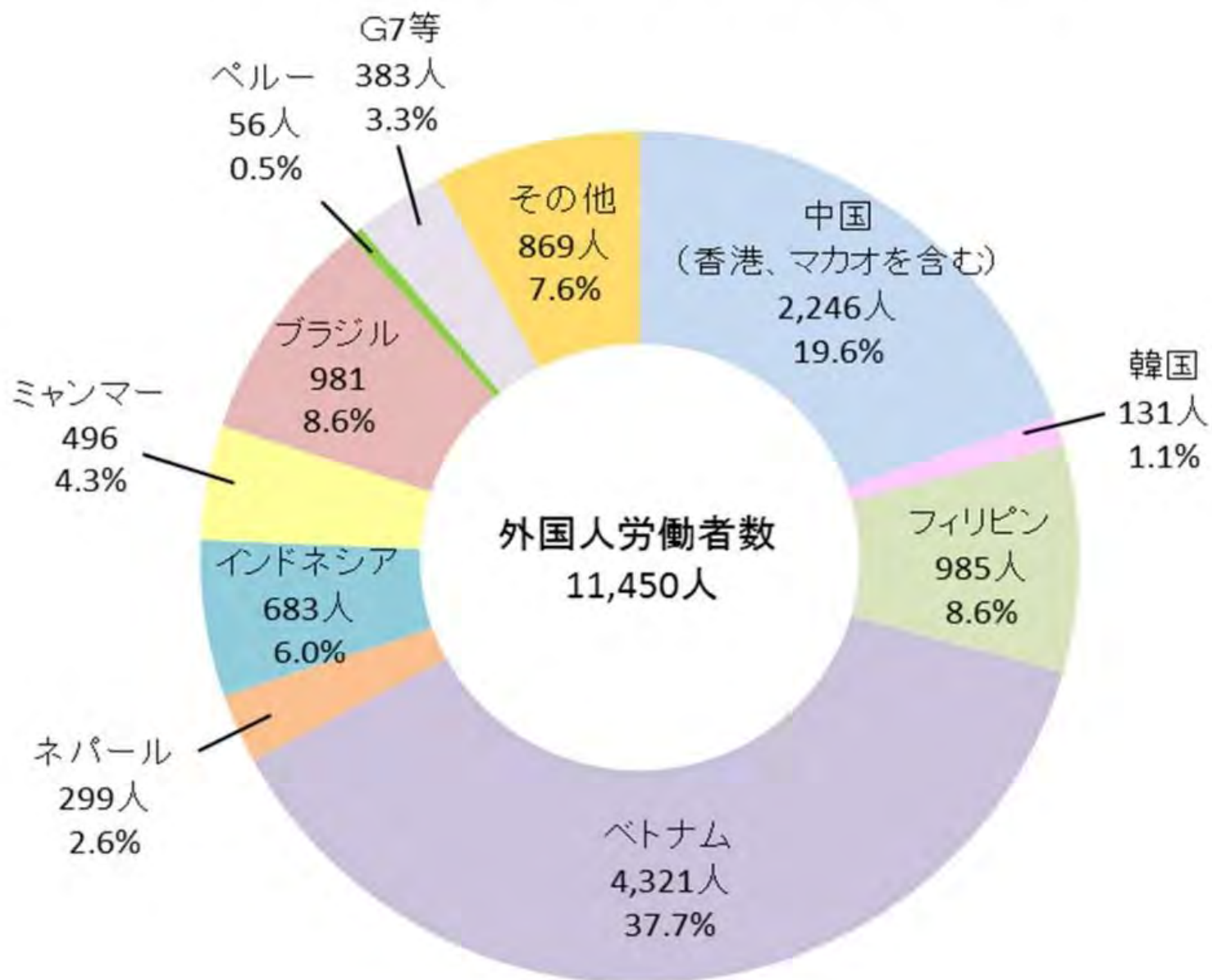
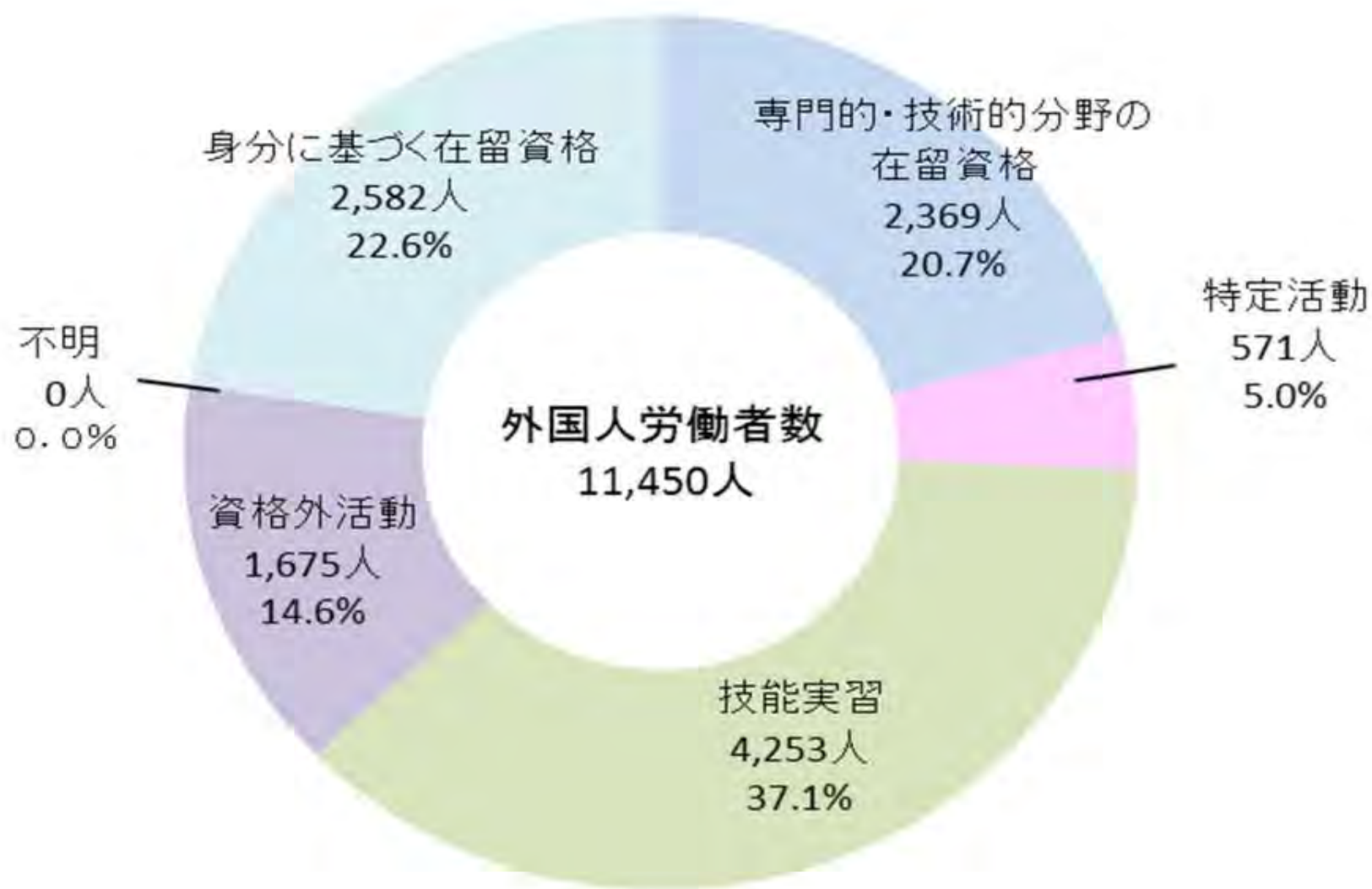
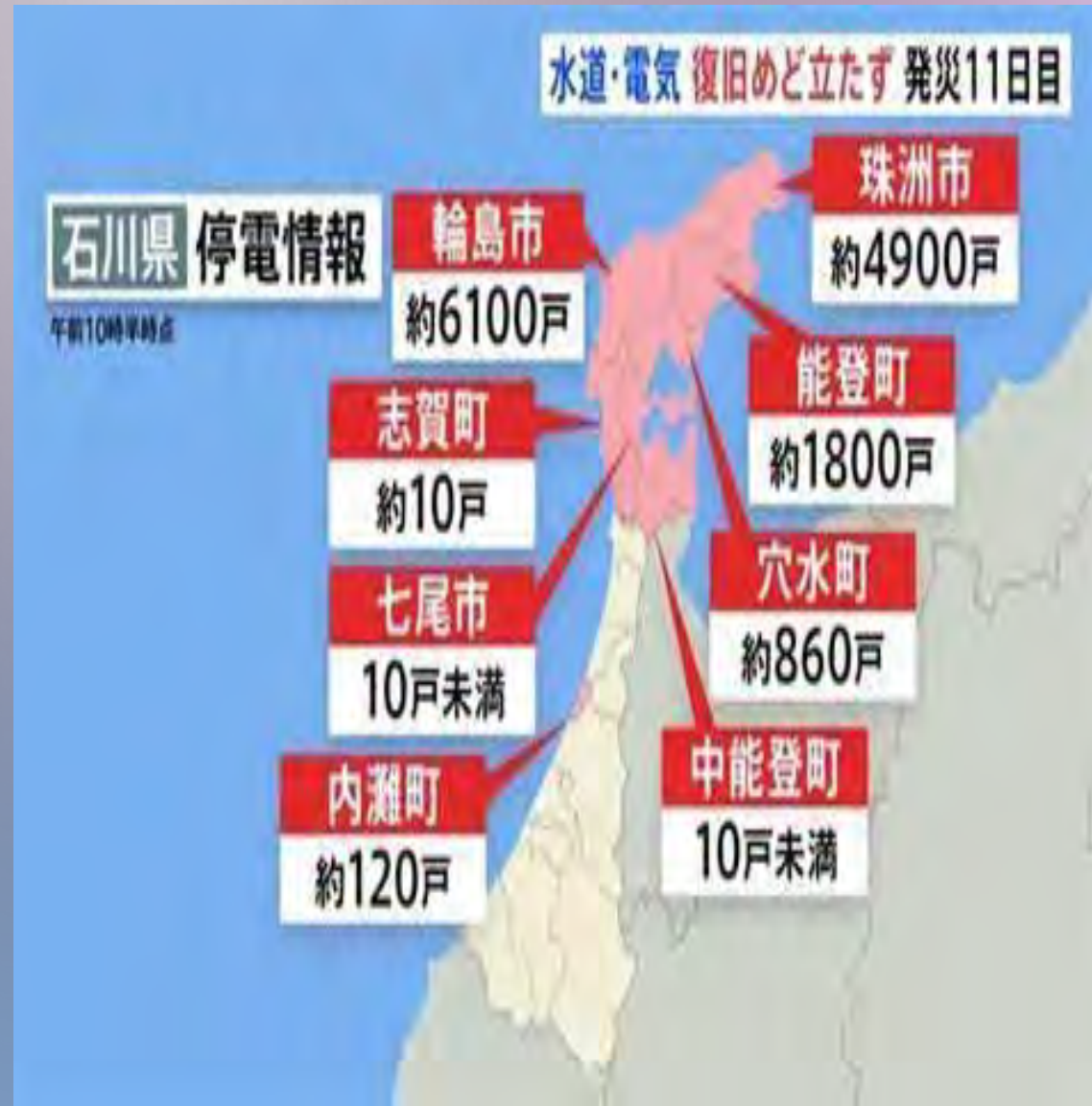


図2 在留資格別外国人労働者の割合



被災地（能登半島北中部のベトナム人在住者 令和4年12月現在

- 七尾市 276人
- 輪島市 25人
- 珠洲市 24人
- 羽作市 50人
- 志賀町 31人
- 中能登町 65人
- 穴水町 15人
- 能都町 13人



・〈ケース1〉 2. 個別事例

神戸大齊藤会員FACEBOOKつながり。

FACEBOOKビデオで聞き取り

出身はベトナム南部ドンナイ省。数か月前に来日した技能実習生(女性・20歳代)

志賀町高浜町に在住。働いていたスーパーが被災し休業し現在会社の寮で避難生活中

志賀町役場は遠く(バス30分)支援物資を取りに行けない。停電で毛布にくるまり、水も止まっている。給与がなくなり生活、本国送金苦しい(ベトナム語)

<ケース2>

七尾市在住ベトナム人女性(クアンビン省)20歳代
Facebookにメッセージがきてビデオ聞き取り
会社はパン屋さん。七尾市役所からは遠く、支給の
水、支援物資を取りに行けない
技能実習3か月目。自室で友人と2人で避難生活中
水、食べ物はなくなる。電気は来ておりエアコンは
使える。会社から一日に1, 2時間の出社を命じられ
後かたづけなどをやる。今後の不安もあり、会社を
変われないか
(日本語はほとんどでずやり取りは基本ベトナム語)

3. その他情報

1. 能登町小木小学校にベトナム人・インドネシア人技能実習生約100人が避難していたが、英語、日本語ができず言語の壁があった。インターネット不通で翻訳機能も使えず(1月15日東京新聞朝刊)

2. ベトナム人2名重症(未確認)

3. 被災地では公共交通が止まり、給水所、市役所、食料提供所が遠くアクセスできないケースが少なくない。インターネット不通、停電でスマホ充電できないケースも。アクセスできた場合は、現住所を確認し、近隣の学校避難所へのアクセスを地図で示し、誘導することも。

4. 移住連、メディアなどとの連携も必要

3. 支援のありかた

能登半島北中部に在住するベトナム人は499名。

現地入りしての支援が望ましいが、現時点ではむずかしい。遠隔地からどのような支援があり得るのか？

現時点ですでに2名の技能実習生から相談があり、現状聞き取り、支援の検討を始めた。被災地のベトナム人労働者の数からみてさらに増える。

友好協会として「能登半島地震支援チーム(仮称)」が必要か？

①現状の聞き取り(ベトナム語)

②必要な支援の検討・手配

③いずれにせよ資金的援助などが必要になる。協会として募金を募ってはどうか。

I 個別ケースへの対応

FACEBOOKなどでつながる

①被災状況、要望の聞き取り

被災し会社寮で避難生活。

水・食糧の配給拠点が遠くて行けない。

電気、ガス、水道の供給状況は地域で違う

「困っていることはなんですか？支援してほしいことは何ですか？」の問いに「わからない」と回答。

②就業・研修先との関係

就業・研修先も被災し、収入が途絶えている。生活費、送金の不安

そのこととかかわって、「就労・研修先を移りたい」という希望

この件は国が検討中

制度的対応

1. 被災地の実習生、特定技能労働者は会社で就労・研修が継続できるか不安

会社の再開まで長期にわたる場合もある。本人らからは、研修・就労先変更の希望が出る

2. 就労事業所休業中は賃金が出ない可能性がある。実習生らは保証金返済など本国送金ができなくなる。生活資金も枯渇

⇒友好協会として実習機構、在留管理庁、入管へ現状を知らせて、

- ①在留資格継続など柔軟な対応
- ②本人が希望した際の移転先確保の支援
- ③休業中の本人らへの賃金支払いの資金的支援

を至急こなうよう求める必要があるのでは。

移住者と連帯する全国ネットワーク、日中友好協会、(財)自治体国際化協会などとも連携をして